第4分科会　組織・運営に関する課題

大分県公立学校教頭会　副会長　植木　龍典

１．提案主題

（１）学校の組織力を高める教頭の役割～校内研究による授業改善から教育目標の具現化へ～

（２）小規模校における学校活性化を目指した取組～地域や家庭、校種間の連携を通して～

（３）学校小規模化に伴う課題を克服する取組～矢掛町における合同授業と合同学年部研修会の推進における教頭の役割～

２．研究の概要：教頭としてどのように係わっていくのか（役割）

（１）① 整理・見える化から　 　 ② 生徒が主体となる指導観の活用から

③ 発信と共有から　　　　　④ 教職員の力量向上から

（２）① 地域や保護者と連携した事業の推進から　 　② 校種間連携の取組の推進から

（３）① 合同授業から　 ② 合同学年部研修から

３．成果と課題

（１）① 暴力行為や触法行為が激減し、授業エスケープもほぼ見られなくなった。

　　　② 「学校の雰囲気は良く、集団としての活動や取り組みは積極的である」の肯定的回答が上昇した。

 ③ 「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の肯定的回答が上昇した。

　　　④ すべての教育活動が、生徒にとって目標を持ち意欲的に取組めるものになるには。

　　　⑤ 教職員が誇りや情熱を持ち続け、健康で充実して働けるようにするためには。また、学校が担うべき業務を大胆に見直し、働き方改革を推進するためにはどうすべきか。

（２）① 地域の方々との様々な体験交流活動は、地元の魅力の再発見や地域コミュニティーづくりにもつながり、子供たちの地域への愛着が深まった。

 　② 中学校校区での学校運営協議会の設置により、地域の方々との交流が進んだ。

　 　③ CSのしくみやねらいの、教職員や地域、保護者への浸透と児童数が減収していく中での取組の継続と学校活性化をどのようにすればよいか。

 ④ 継続的、組織的な連携とするため、教頭のマネジメント力をさらに向上させるためにはどのようにすればよいか。

（３）① 仲間意識が醸成され、コミュニケーション力も向上し、中学校へ進学してからスムーズに中学校生活に入れるようになった。

　　　② 合同学年部研修会が、互いが学び合い優れた取組を共有する人材育成の場として発展していった。

　　　③ 教職員の働き方改革が進む中で、担任の負担を軽減するためには、どうすればよいか。

４．指導助言

（１）取組が10年以上の長きにわたって行われていることが、非常に素晴らしい。

（２）児童・生徒の体験交流活動は、長きにわたって記憶に残り、後に地域の財産となる。

（３）合理化が進む中、統廃合せず、教育に対する町の住民の思いが良い成果を収めている。